

ICT活用、工事学ぶ

大仙 大曲工高生、重機操縦も

情報通信技術（ICT）をの操縦やドローンの操作を体験した工事の見学会が、大仙市仙市強首の雄物川上流付近の現場で行われた。大曲工業高校の土木・建築科で学ぶ1、2年生42人が、シヨベルカー



ICTを搭載した重機の操縦を体験する生徒



ドローンの操作にも挑戦した

市大曲西根）が進める堤防建設工事の現場に、五つのブースを設けて実施した。ICTによる制御機能が搭載されたシヨベルカーの操作では、試乗した生徒がモニターを見ながらレバーを操作。設計図通りの高さや角度にバケットを自動的に動かす。生徒はこのほか、設計図上のドローンの操作体験では、生徒は手元のモニターと空中のドローンを交互にチェックしながら慎重に操作。工事現場の状況確認、3次元設計図の制作などに活用されていると作業員から説明を受けた。

自分の現在地が表示されるアプリの機能も体験した。見学会は5日に実施した。品川唯斗さん（1年）は「重機の操縦は危険が伴うというイメージがあったが、ICTで動きが制御され、安全に操縦できることが分かった。技術の進歩を感じた」と話した。

（佐藤和輝）